

第 3 回全国副会長研修会記録

◆出席者◆

- | | |
|------------|---|
| ○会 長 | ・阿部 謙策 |
| ○本部副会長 | ・山中ともえ・川崎 勝久・堀江 朋子 |
| ○北海道ブロック | ・高村 誠 (札幌市美しが丘緑小)
・三谷 和 (札幌市立西岡北小・記録者) |
| ○東北ブロック | ・小山 敦夫 (柴田町立槻木小) |
| ○関東甲信越ブロック | ・鈴木 克俊 (東松山市立野本小) |
| ○東海・北陸ブロック | ・本多 真吾 (福井市立清明小) |
| ○近畿ブロック | ・鈴木 猛示 (和歌山市立鳴滝小) |
| ○中国ブロック | ・恩田 仁志 (奥出雲町立布勢小) |
| ○四国ブロック | ・杉本 一幸 (高知市立三里小) |
| ○九州・沖縄ブロック | ・佐久本 実 (うるま市立彩橋小中) |
| ○兵庫 | ・宮谷 和教 (伊丹市立荻野小学校) |
| ○事務局 ○会計部 | ・橘 厚子 (事務局長)
・三井 知恵子 (事務局) ・須田 順一 (会計部長) |

◆指導助言者 (ご来賓) ◆

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 田中 裕一 様
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所教育支援部上席総括研究員 笹森 洋樹 様
主任研究員 小澤 至賢 様

日時：平成 28 年 1 月 28 日 (木) 11 時 00 分～12 時 50 分

会場：伊丹シティホテル (兵庫県伊丹市中央 6-2-33)

◆司会・・・川崎 勝久

副会長会の時間が当初の予定より 30 分短くなりました。また、今回の副会長研修会から記録を全特協のHPに載せることにしました。

◆開会の言葉・・・佐久本 実

7月の第二回副会長研修会から半年が経過しました。先週は沖縄でも曇りが降り驚きました。今年度のまとめ、来年度への体制づくりと大切な会となります、よろしく願いいたします。

◆会長挨拶・・・阿部 謙策

ご多用の中、全国各地からお集まりいただきありがとうございます。前回の7月末の副会長研修会から6ヵ月が経過しましたが、今回も3つの課題提起があり、各地区で集約された資料を作成していただきました。これらの報告をもとに、それぞれ情報交流等連携を深め、その成果を各理事を通して各地区へ持ち帰っていただき、ますます特別支援教育の充実、発展につなげていきたいと考えております。この副会長会が有意義な会となりますことを期待しています。本日はどうぞよろしく願いいたします。

◆開催地実行委員長挨拶・・・宮谷 和教

歴史と文化のある伊丹市へようこそ。全国各地から副会長様の皆様にお越しいただき感謝申し上げます。日頃より、特別支援教育は学校長が中心となって進めていくことが大事であると強く感じております。今日まで本部役員の皆様のご支援をいただきながら、兵庫県として準備してまいりました。今日明日の2日間、どうぞよろしく願いいたします。

◆来年度の全特協会長候補の推薦について・・・山中ともえ

規約通りに第三回のこの副会長研修会の場をもって推薦をいたします。学習指導要領のことが動いている大切な時期ですので、3年目にはなりますが、現阿部会長の続投をお願いしたいと思います。ご了承いただけますでしょうか？（全員拍手を持って承認）

◆新会長挨拶・・・阿部 謙策

3年目となりますが、いろいろな声を発信してまいりたいと思いますので、今後ともご協力をよろしく願いいたします。

◆報告・・・川崎 勝久

(1) 平成 27 年度全国調査について

各県に冊子とCDをお配りしましたのでご活用いただきたい。回収率が目標の10%に近づいてきている。検定本の選択状況については、国語と算数・数学に絞って調査をしている。☆本については、多く選択できるようになるための方策結果が出ている。検定本の活用に当たっての要望と合わせて教師用指導書への要望も見ることが出来る。考察やまとめをご覧いただき、全国の流れや新学習指導要領とも絡めながら、これからどのように特別支援教育の中身を充実させていくかを、皆さんと共有できたらと考えている。

(2) 中教審教育課程企画特別部会の特別支援教育部会からの経過報告・・・山中ともえ

次期学習指導要領改訂に向けて、この間5回の特別支援部会が持たれた。部会の委員構成について、今後のスケジュールについては資料の通り。部会では、特別支援教育における検討事項についての案が5点（資料参照）について話し合われた。また、幼、小、中、高における特別支援教育に係る検討事項に係る検討事項の案についても5点（資料参照）について話し合われている。

○田中調査官より補足

- ・今後、各教科の学習指導要領にどう書かれるかが議題となってくる。
- ・障害があるからではなく、困難さがある児童にどう配慮していくかの書きぶりに注目してほしい。

(3) 各ブロックの報告「課題について」

【課題1】

☆本教科書採択に関する閲覧の機会や教科書採択の方法（システム）

【課題2】

差別解消法実施に際し、合理的配慮の提供に関する判断基準や対応について

【課題3】

差別解消法実施を受けて、交流及び共同学習の内容及びそこでの合理的配慮について

◆各ブロックからの報告

【北海道】・・・高村 誠（札幌市美しが丘緑小学校）

○別紙参照 A4、5ページ分について説明

※全道各25地区のうち回答のあったいくつかの地区からのみの分をまとめている。これが北海道のすべての状況と言うわけではない。

質問「市教委の対応要領については何か所ほどあったか？」（田中調査官）

・私が把握しているところでは、札幌市と旭川市。道教委に尋ねたところ、こうした対応要領を早急に出す予定は無いとのこと。（高村）

【東北】・・・小山 敦夫（柴田町立槻木小学校）

○別紙参照 A4、5ページ分について説明

※宮城岩手、青森、の3県から情報が上がってきたものをまとめたもの。

質問等なし

【東海北陸】・・・本多 真吾（福井市立清明小学校）

○別紙参照 A4、4ページ分について説明

※夏の全国大会では、大変お世話になり、ありがとうございました。

今回は東海北陸ブロック7県から情報をいただいたものをベタうちしてきた。

質問「中3の段階で通常の学級に戻すとの話があったが何故か？」（田中調査官）

・皆と一緒にテストを受けさせたいと言う希望が親の中にあるようだ。（本多）

【関東】・・・鈴木 克俊（東松山市立野本小学校）

○別紙参照 A3、2ページ分について説明

※先週末に集めたばかりの情報で、よく分からない部分もあるが、ざっと目を通した点について説明したい。

質問等なし

【近畿】・・・鈴木 猛志（和歌山市立鳴滝小学校）

○別紙参照 A4、3ページ分について説明

※近畿ブロック2府4県についてまとめてみた。

質問等なし

【中国】・・・恩田 仁志（奥出雲町立布勢小学校）

○別紙参照 A 4、2 ページ分について説明
質問等なし

【四国】・・・杉本 一幸（高知市立三里小学校）

○別紙参照 A 4、4 ページ分について説明
質問等なし

【九州・沖縄】・・・佐久本 実（うるま市立彩橋小中学校）

○別紙参照 A 4、6 ページ分について説明
※今回の課題については、鹿児島県・福岡県からは県教委の回答、宮崎県・長崎県は理事の方で回答をいただいた。沖縄県は公立小中学校校長にアンケートを取り回答いただいた。
質問等なし

★8ブロックのまとめとして

課題1に関して

- ・ ☆本の閲覧の機会はそれなりにあるが、実際に周知や活用については少ない。
- ・ なかなか☆本の内容が理解されていない現状があるため、当然採択率は低く、採択のシステムも理解されていない。
- ・ ☆本が採択されない原因として、他にも時代に合わない古い記載等が見られる。また毎年選べるシステムになっていなく、検定本と両方を得ることができないため、☆本のみを選択しにくい等の理由が挙げられた。

課題2に関して

- ・ 合理的配慮の提供については、具体的な学校現場での判断基準の対応が進んでない。
- ・ 県・市教委からの対応指針が、各市町村に降りてきているところは少ないようだ。
- ・ 教育現場のみの話ではないため、まだ時間がかかるのではないだろうか。
- ・ 一部の市町村では対応指針が発行される予定も聞こえてきている。
- ・ それぞれ取り組みが開始している所もあるが、学校によっての温度差がある。
- ・ 大事なことは、障害があるからと言う理由ではなく、その子の困り感を捉え保護者との間にしっかりと合意形成を図ることである。

課題3について

- ・ 交流及び共同学習については、これからの共生社会の形成に向けてますます重要になってくるはずである。
- ・ 障害がある子にとってもない子にとっても、双方にとって価値あるものでなければならぬし、そのためにも実態把握と準備が不可欠である。
- ・ 居住地交流も進んできているが、単に学校間の交流に留まることなく、最終的には地域へどう結びつけていく活動を模索していくかが大切になってくる。

◆議事

平成28年度の行事予定

- | | |
|---------------------------|---------------|
| ①平成28年度 第53回全国研究協議会（奈良大会） | 8月4日（木）～5日（金） |
| ②平成28年度 関東甲信越研究協議会（山梨大会） | 11月11日（金） |

◆指導・助言・・・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官
田中 裕一 様

- ・全特協の調査報告書 P 2 の「校種別毎の教育課程編成状況」を見ると、学年相当の教科＋自立活動が小学校の知的で 14%、中学校の知的で 26%となっているが、知的障害とは何なののでしょうか？と言う疑問がわいてくる。つまり、それで学べることの理由が理解しづらい。また、中学校の知的と情緒のところを見ると、56%と 34%が下学年の教科を勉強しているようだが、この子たちの将来設計をどう考えているのかの疑問が浮かんでくる。この調査は、教科書のことを調査したものだが、いろいろなことを考えさせられる資料となっている。
- ・特別支援学級の担任が☆本のことを知らなかったり、理解していなかったりしている現状は、子どもにとって何の利益にもならない話で残念である。確かに採択の手順が浸透していなかったり、☆本自体が古かったりなどの課題があると認識しているので、これらの話は文科に持って帰って話をしたいと考えている。
- ・各学校における合理的配慮の提供のプロセス（別紙資料）をお持ちしたが、これは 1 2 月に東京で、先々週は大阪で行われた「合理的配慮セミナー」で使用したものである。合わせて 1300 名ほどが集まり、関心の高さを感じた。これは、一定の共通手順を示したものが、基準については現場の皆さんが今後作っていくものだと捉えていただきたい。たとえ、市町村単位で対応指針が示されても、学校によって環境や実態が違うわけで、当然共通の合理的配慮はなく、基準は決めようがないと考えていただきたい。ただ、対応の手順はコーディネーターを中心に丁寧で一緒であった方がよい。過度な要求をしてくる親ほど、その要求の裏にある本当の思いは何なのかを、ひも解いてあげることが大事である。出来ないと言ってしまうと最初から対立の構造になってしまう。地域にいる専門家など、いろいろなリソースをもっと活用していくと、よい案が見つかる場合がある。
- ・「週刊教育資料」の中に阿部会長の対談記事が載っていた。この最初のインタビュー記事に特別支援教育のことが取り上げられていることは画期的なこと。その中で阿部会長が「校長のリーダーシップが大事である」とおっしゃっている。本当にそこが大事だと思いますので、是非今後も皆さんと一緒に頑張っていきたい。

◆指導・助言・・・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所教育支援部 主任研究員
小澤 至賢 様

- ・調査報告書の P 1 7 を見ると分かるが、知的学級で約 8 割、自閉・情緒学級で約 9 割の子どもたちが、学年相応もしくは下学年の教科書を使用していることが分かった。
- ・☆本については、P 1 8 にあるように①実生活に合わせた内容 ②障害特性に合わせた内容 ③発達段階に合わせた内容 ④理解がしやすい絵や写真にする の 4 点のことが充実すると、選択されやすいことも分かった。合わせて☆本の教師用指導書への工夫や理解が必要であることも明らかとなった。

◆指導・助言・・・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所教育支援部 上席総括研究員
笹森 洋樹 様

- ・障害があるから合理的配慮があるのではなく、その子に教育的ニーズがあるから合理的配慮が必要となってくる。したがって、その配慮にはしかるべき成果や効果があるはずである。そして効果が見えてきたら、いつまでも同じ配慮ではないはず。合理的配慮は子どもの変容によって変えていかなければならないものである。その仕組みが、学校内はもちろん、地域でも出来ることが望ましいと考える。
- ・合理的配慮は世界共通言語である。その子への教育的ニーズに配慮するべきものであれば、当然、学校だけではなく家庭でも出来る合理的配慮もあるはずである。保護者に対して合意形成をしていく中で提言していけるものでもある。

- ・合理的配慮は障害のある子どもに障害のない子どもと同じ学び方を求めるものではない。同じ目標で同じ内容を学ぶが、個々の子供の特性に応じて違う学び方について配慮すること、学びやすい状況をつくることへの配慮である。
- ・中学校段階である程度の学力を習得し目的を持って高等学校へ向かう子と、学力不足で望む進路選択が出来ない子の差がつく。したがって将来を見据えた高等学校への進路選択ではなく、単に入れる高校を選んでしまう傾向が強い。高等学校の特別支援教育の場合、どれくらい一人一人の子どもに視点が当てられるかが大事になってくる。そのためにも、義務教育段階での小中学校で、どんな力をつけさせるかが大切だと考える。

◆その他・・・堀江 朋子

- ・平成28年度定期総会のお知らせ
6月20日（月）、21日（火） 東京ガーデンパレスにて
- ・平成28年度全国理事氏名の報告について
分かり次第、早めの報告をお願いいたします。

◆閉会の言葉・・・高村 誠（札幌市美しが丘緑小学校）

今日は全国からお集まりいただき、ありがとうございました。合理的配慮には、まだまだ難しい面がございますが、各地の実態の交流が出来、大変参考になりました。お疲れ様でした。